

第96期
株主通信


2018.4.1 ▶ 2019.3.31



TAMURA



代表取締役会長 田村 直樹



代表取締役社長 浅田 昌弘

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り心より御礼申し上げます。

ここに第96期（2018年度）株主通信をお届けし、当期の事業活動および決算のご報告とともに、今後に向けた取り組みをご説明させていただきます。ご一読の上、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

Bilrite Tamura

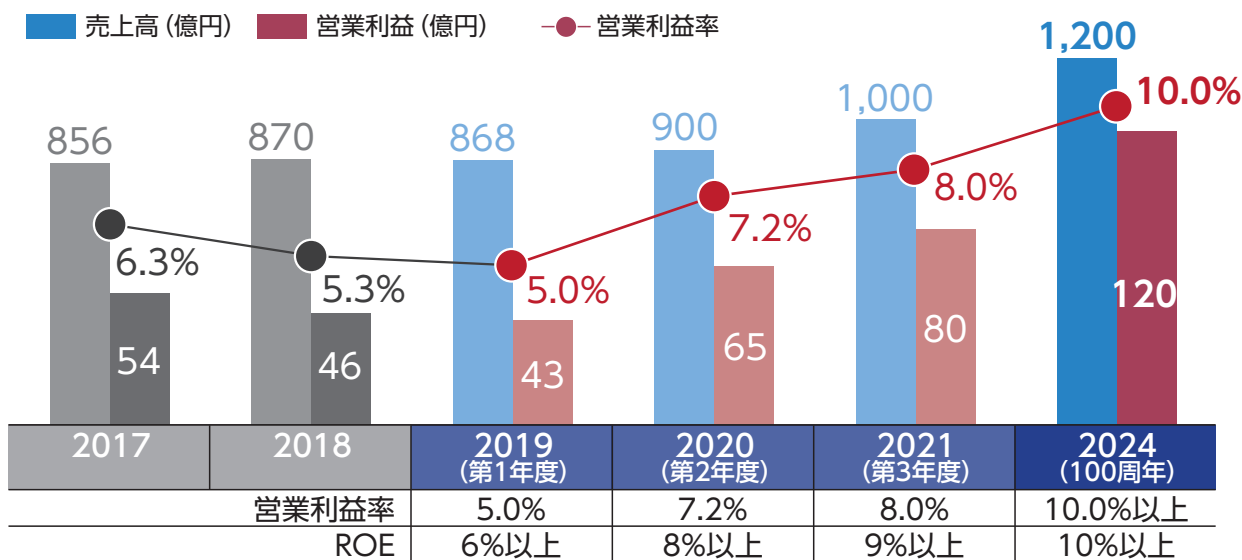
Bilrite = Build up + Right
(作る) (正しく)

GROWING ANEW
ANEW = 「新たに」「改めて」

長期ビジョンとして創業100周年（2024年）とその先に続く持続的な成長を見据えながら、2021年度をターゲットとする第12次中期経営計画を、2019年4月、新たな経営体制でスタートしました。

目標とする経営指標

- ① 収益性の向上を第一として、2021年度の連結営業利益率は8%以上、100周年は10%以上を目指します。
- ② 資本効率に関する目標として、2021年度のROEは9%以上、100周年は10%以上を目指します。株主資本を充実し経営基盤の安定化を推進しつつ、資本効率を高めてまいります。



新社長・浅田昌弘がお答えする経営戦略 Q & A

創業100周年とその先に向けて描く、 新たな成長ストーリー



Q 前中期計画の振り返りをお願いします。

A 3年間の計画の中で、1年目と2年目は過去最高の営業利益が2年続くなど非常に順調に推移しました。そして3年目に向けてさらなる成長をという計画だったのですが、最終年度は米中貿易摩擦の影響と、それに伴う中国経済の減速、スマートフォン需要の一巡などによる影響を受け、営業利益46億円と残念ながら振出しに戻るといった感じで終わってしまいました。

収益性の向上を第一の目標に、製品の選別等を進めて付加価値の高いものに集中するという形ができてきており、一定以上の利益が出る体質にはなってきました。しかし、景気の流れに左右されずに成長できるような勢いを持てる戦略製品の創出が残念ながら上手く行かなかったということだと思います。それが3年目の反省で、さらには中期計画3年間の反省でもあると考えています。

Q その中でも、次の中期計画に向けて何か光明となるようなことはありましたか？

A 前中期計画では重点市場として車載関連のビジネスに力を入れてきました。中でも環境車向け昇圧リアクタは、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車、電気自動車などへのシフトが進む中で、当社の製品は性能的にも品質的にも非常に良いという評判をいただいたことで、事業として伸長しました。

100周年で目指す姿

本中期経営計画は、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成に向けた活動を基軸として、当社が株主、取引先、従業員、地域社会など、全てのステークホルダーに必要とされる存在として、世の中の期待に応えながら、健全に成長していくことを目指します。



Oneタムラ戦略

タムラは各事業分野で、卓越した製品・技術を持っています。今後大きな成長が期待される「車載」・「パワーエレクトロニクス」・「IoT次世代通信」の各市場に向けて、ベストプラクティスを共有し、グループ総合力で取り組んでまいります。

	車 載	パワーエレクトロニクス	IoT次世代通信
電子部品	昇圧リアクタ・コイル 充電器用リアクタ 電流センサ	大型トランス・リアクタ ゲートドライバ 酸化ガリウムパワー半導体	自販機用金額表示器 人感センサ (見守り)
電子化学材料	車載用ソルダーペースト 車載用ソルダーレジスト	パワーデバイス用 無残さペースト	フレキシブル基板用ソルダーレジスト レーザーはんだ付ペースト 可逆伸縮性接合材 半導体用ソルダーペースト 導電性接合材
実装装置	車載用リフローはんだ付装置		スマートファクトリー対応実装装置
情報機器			4K・8K音声卓 音声装置のネットワーク対応

事業共同戦略 (Business Common Strategy) is indicated by a vertical arrow on the left side of the table.

製品戦略・顧客戦略の横展開 (Horizontal Expansion of Product and Customer Strategies) is indicated by a horizontal arrow at the bottom of the table.

車関係の開発期間は長いので、前中期の期間内には大きな売り上げにならなかったのですが、次期中期3年の中では更なる拡大見通しが確かなものになってきましたので、国内2か所と中国で工場設備の拡張と増強を図ると判断をしまして、既に投資を始めています。

また、電子化学実装事業では、2017年にタイのOEM工場に資本を入れて自社工場化し、そこに新たな工場を新設して当社のASEAN地区の生産拠点とする戦略を進めています。ヨーロッパには、これまでしっかりした生産拠点がなかったのですが、2017年にドイツにあるはんだ製品を作っている現地企業をM&Aで取得し、そこを拠点にヨーロッパエリアの拡大体制を整備しました。

Q では、2019年度から始動する新中期経営計画について聞かせてください。

A 2019年の4月から新しい中期計画がスタートしています。スローガンは、「Bilrite Tamura GROWING ANEW」です。「Bilrite」は当社創業時に作った造語で、前中期から継承しており、そこに込められた「正しく作る」というコンセプトを基本に

して今後もやっていきたいと思っています。「ANEW」は、「新たに」「改めて」という意味になります。新元号にもなりましたし、会長と社長も新しくなりました。また、前中計は3年目で失速してしまって、目標が成就できなかったということも含めて、「もう一度やり直す」という意味も込めています。

コンセプトとしてはSDGs (国連が掲げる持続可能な開発目標) を基軸に据えています。その目標年度は2030年ですが、その前の2024年に当社の100周年となりますので、まずはその100周年に向けて自分たちの「ありたい姿」というものを実現していきたいと考えています。そのために前半の3年間で体制を構築して、2024年の開花を目指したいと思っています。2019年度は、世界情勢が非常に不透明な状況にありますので、事業環境としてはあまり良くないという判断をしていますが、2年目には前中期計画最終年度で達成したかった数字に近づき、3年目には売上高1,000億円を狙います。その先の2024年の100周年では、売上高1,200億円、営業利益120億円、営業利益率10%という高い目標を目指します。

投資戦略・地域戦略

将来の成長が期待される自動車市場や、成長エリアに向けた設備投資を強化しています。新たな拠点に対して、タムラグループ員としての生産・開発・販売体制の整備を迅速に進め、投資効果の最大限の発揮を目指します。

電子部品

車載を中心に、自動化により高付加価値品を生産

日本

2018
坂戸建替

2019下
若柳車載量産

2021
若柳車載増強

2022
坂戸車載第2工場



電子化学実装

高機能品・開発品を日本生産

2014
児玉第二工場



東
アジア

中国は地産地消・地開（開発）地承（承認）を推進

2019～2022
中国工場再編

2022
中国車載工場

韓国は現地開発力を強化

2018
タムラ化学韓国研究棟



東南
アジア

手数のかかる量産品はミャンマー・バングラデシュに生産移管

2008 光波買収
バングラデシュ拠点設置

2014
ミャンマー子会社化

成長著しいタイに、
インドも見据え新工場

2018 タイ新工場



欧米

欧州発の技術を世界に展開

2010 ロマーシュ買収
大型トランス参入

2010～2018
大型トランス生産拠点拡大

ドイツに車載向け
中核拠点を設置

2017 ドイツ拠点



Q 目標を実現するためのアクションは？

A 現在、自動車における「CASE (Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric)」というキーワードが100年に一度といわれる産業界の変化をもたらし、次世代通信の進化は人びとの暮らしを一変させるとわれています。そうした中で、当社は「車載」・「パワーエレクトロニクス」・「IoT次世代通信」という3つの成長市場に注目し、当社の100周年とその先において、グループ一体で「魅力ある製品・感動を与える製品」を提供し、サステナブルで豊かな社会の実現に貢献する企業グループとなることを目指します。

また、「100周年で目指す姿」では、世の中の期待と企業の運営というものをマッチングさせたいと考えています。SDGsに貢献するためには環境製品と呼ばれる最終製品に当社の材料や部品などをもっと使っていただいて、エコを加速させたい。それで利益を得て、最終的に社会に還元していくというサイクルができればと思っています。

また100周年での「ありたい姿」の実現に向けて、本中期経営計画では社内の各事業がそれぞれ蓄積してきたベストプラクティ

スを共有し、成長市場にグループ総合力で取り組む体制の構築を進めていきます。それぞれの事業分野で卓越した技術を保有していますので、それを会社全体でもっとまとめて行けば、市場でのブランド力を高めることができると考えています。これが「Oneタムラ戦略」です。

Q 最後に新経営体制についてお聞かせください。

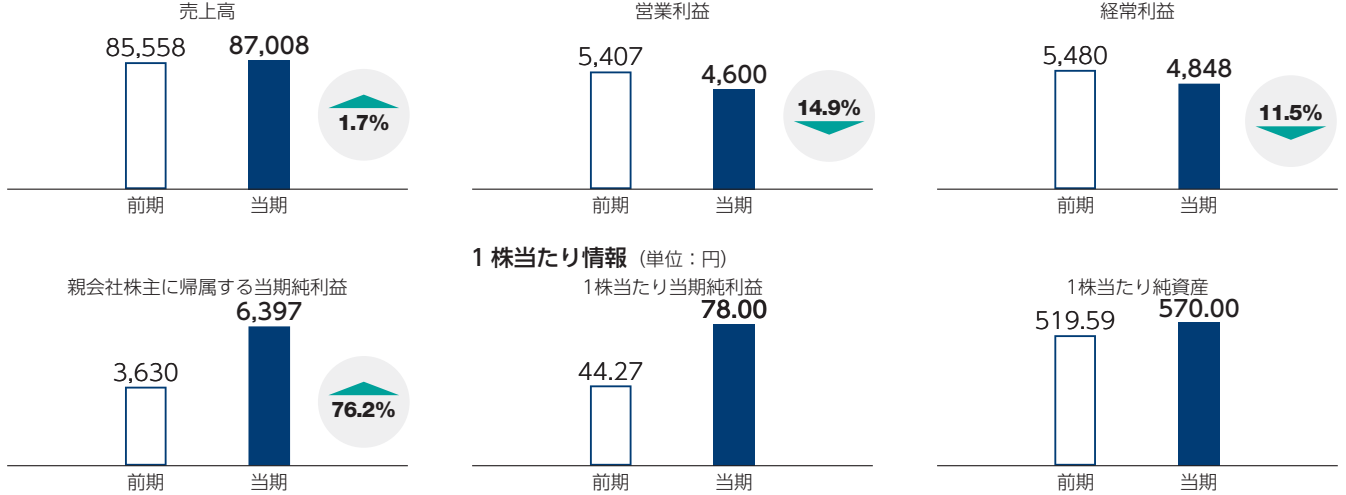
A 2019年4月より、当社は新たな代表取締役会長・代表取締役社長による経営体制を開始しました。これにより、会長は会社の経営全般総攬、社長は会社の経営全般執行にそれぞれ責任を持つことで、決定プロセスの客観性及び透明性を確保します。また、取締役会における女性1名を含む社外取締役3名の選任、取締役会の諮問機関として「指名・報酬諮問委員会」の設置など、経営ガバナンス体制の整備を進めています。これらにつきましても次世代経営層の育成とともに維持・強化していきます。100周年とその先の持続的成長を見据えて、Oneタムラで企業価値向上に取り組んでまいりますので、株主の皆様には引き続き力強いご支援をお願い申し上げます。

業績概況

Review of Operations

- ◆ 米中貿易摩擦を背景とした中国経済の減速などを背景に、売上は前年より微増
- ◆ 電源機器の不具合に伴う修理費用の計上などにより、営業利益は前年を大幅に下回る
- ◆ 損害賠償請求訴訟に基づく和解金を特別利益に計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高益を更新

連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



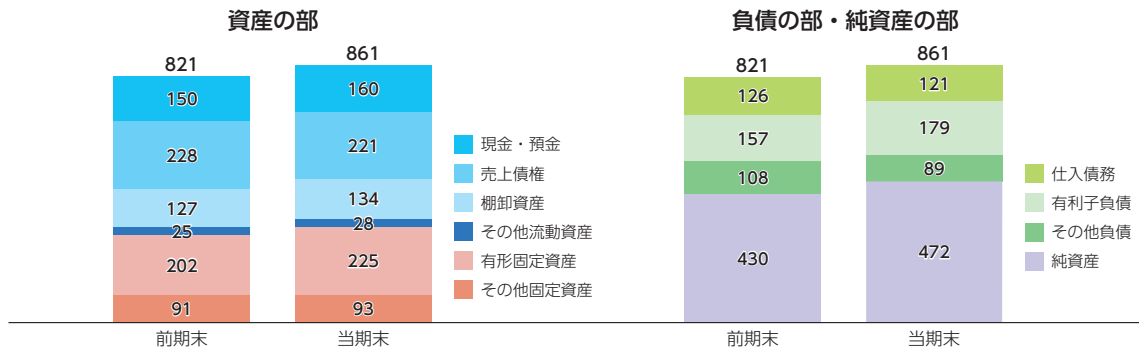
1株当たり情報 (単位：円)



連結貸借対照表の概要

Summary of Consolidated Balance Sheet

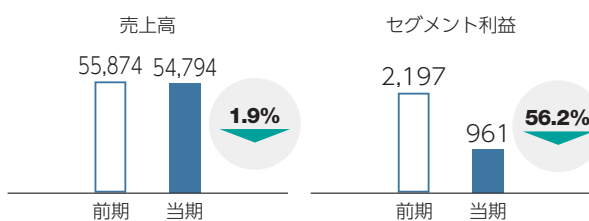
(単位：億円)



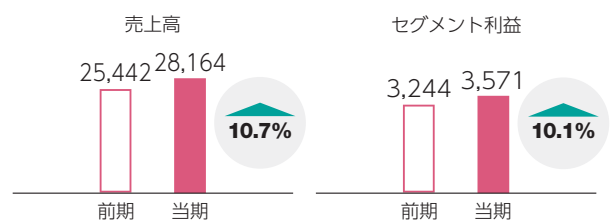
セグメント情報

Segment Information

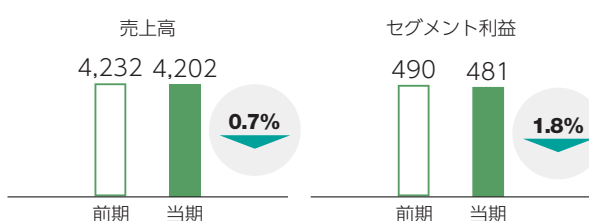
● 電子部品関連事業 (単位：百万円)



● 電子化学実装関連事業 (単位：百万円)



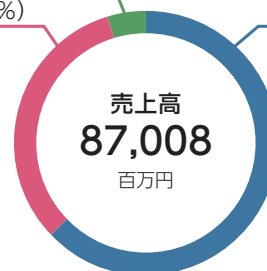
● 情報機器関連事業 (単位：百万円)



情報機器関連事業 (5%)

電子化学実装関連事業 (32%)

電子部品関連事業 (63%)



※各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて表示しております。

会社の概況 (2019年3月31日現在)

- 社 名 株式会社タムラ製作所
- 英文社名 TAMURA CORPORATION
- 設 立 1939年11月21日
- 資 本 金 11,829百万円
- 従業員数 連結5,021名 単独883名
- ホームページアドレス
https://www.tamura-ss.co.jp/
- 本 社 東京都練馬区
- 事 業 所 埼玉県(坂戸市・入間市・児玉郡・狭山市)

■ 役 員 (2019年6月26日現在)

- | | |
|-----------|-------|
| 代表取締役会長 | 田村 直樹 |
| 代表取締役社長 | 浅田 昌弘 |
| 取締役常務執行役員 | 橋口 裕作 |
| 取締役(社外) | 藁宮 武夫 |
| 取締役(社外) | 窪田 明 |
| 取締役(社外) | 渋谷 晴子 |
| 取締役上席執行役員 | 南條 紀彦 |
| 取締役上席執行役員 | 齋藤 彰一 |
| 常勤監査役 | 久保 肇 |
| 監査役(社外) | 守屋 宏一 |
| 監査役(社外) | 戸田 厚司 |

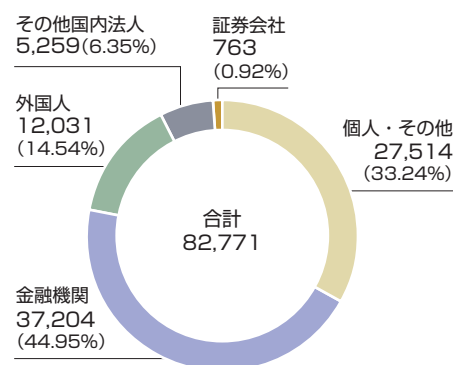
株式の概況 (2019年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 252,000,000 株
- 発行済株式の総数 82,042,757 株 (自己株式 728,716 株を除く)
- 株主数 11,774 名
- 大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,283	11.32%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,172	5.09%
タムラ協力企業持株会	3,429	4.18%
株式会社三井住友銀行	3,200	3.90%
株式会社みずほ銀行	2,799	3.41%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,703	3.30%
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	2,140	2.61%
株式会社りそな銀行	1,911	2.33%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,845	2.25%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	1,719	2.10%

(注) 持株比率は、自己株式 728,716 株を除いて算出しております。

■ 所有者別株式分布状況 (単位:千株)



(注) 自己株式 728,716 株 (0.88%) は個人・その他に含まれております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金 毎年3月31日

中間配当金 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法 電子公告 (<https://www.tamura-ss.co.jp/jp/finance/index.html>)

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネット) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
(ホームページURL)

(特別口座の口座管理機関の変更にに関するご案内)

2019年6月1日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社に変更いたしました。

株式会社タムラ製作所

<https://www.tamura-ss.co.jp/>

当冊子に関するお問い合わせ先:

〒178-8511 東京都練馬区東大泉一丁目19番43号

TEL 03-3978-2111

